



# 天橋立名松リバーズ だより

No.7  
2005年8月号

編集・発行  
天橋立名松リバーズ  
実行委員会事務局

〒626-100001  
■事務局■  
京都府宮津市文珠437  
天橋立総合事業(株)内  
TEL 0772(22)53004  
FAX 0772(22)53005  
http://www.taneori.jp/re-birth/

松の悲鳴がよるこびに!!

人々の思いのこもった創作  
「龍灯アート」コンテスト

いよいよ8月6日～7日に  
楽しみの発表会開催

昨年10月20日、台風で倒木した名松に、形を変えて新しい命を吹き込もうとの思いでこの9ヶ月、松材の管理・リバーズ館創設・ビジョン提言などさまざまな事業に取り組んできましたが、いよいよその「再生」の第一弾として「天橋立龍灯ア

ト」の発表会を開催する運びとなりました。「龍灯」とは、龍神が橋立の平穏を祈り、獣灯するという幻の炎で、伝説の名松「龍灯の松」に灯ったと伝えられています。この現代の「龍灯」が、人と松との共生の第一歩として天橋立の未来を明るく照らしてくれることを心より願っております。

以下の要項で龍灯発表会を催します。  
・とき／ところ 8月6日(土) 智恩寺境内  
7日(日) 龍神社境内  
・じかん 午後7時30分 点灯

8月6日 オープニング(智恩寺境内 於)  
午後6時より 発表会と授与式と点灯

8月6日～7日開催の龍灯アートコンテストに向けて、力作 続々到着!!



各地から第一次審査を経て、応募いただいた作品約30点が、リバーズ実行委員会に届きはじめました。いずれも心のこもった素晴らしい出来栄です。8月6日の発表会が、今から楽しみです。  
※ 写真の作品は7月31日までに届いた作品です。



## ●第10回 創作部会開催

7月29日(金)PM7時30分より

目前にせまった「龍灯アートコンテスト」を前に、第10回 創作部会が西川部会長の下、天橋立駅2階で開催されました。当日の準備・運営など詳細に決定しました。

リバーズ実行委員会のメンバーは、全員、準備作業のため8月5日(金)PM6時、8月6日(土)PM6時に智恩寺山門前に集合してください。点灯式はPM7時30分からです。



8月6日～7日に向けて、熱心に議論

天橋立の倒木松が、宮津と府中の町の中にもよみがえり

人々の心の中に明かりを灯す……

天橋立名松リパス実行委員会は、昨年秋、悲鳴をあげ無惨に倒木した約220本の名松たちが、再生、すること……「木は倒れても生きていく」「松の悲鳴をよるこびに……」との一心の思いで、この9ヶ月余り必死になって取り組んできました。その努力の結果が、一つ一つ実りつつあります。私たちが今後この町が、松の香りただよう町に、人と松が共生する空間に……と、切に願っています。



### 宮津の「見返り柳」案内看板ができた

港町として栄えた城下町宮津のシンボルだった「見返りの柳」の案内看板が、宮津市魚屋町西堀川の被止場児童遊園に設置された。写真、昨秋の台風23号で倒れた松材を天橋立名松リパス実行委員会からもらい受け、由来を地元書家が書いた。「見返りの柳は江戸時代から近くの新浜にあった花街の出入り口に立ち、客が帰る際に遊郭を振り返り、名残を惜しんだことから名付けられた。戦後、ジェーン、伊勢湾開港で倒れ、3代目は府道の拡幅で撤去、同遊園地に植えられた4代目は台風23号で倒れ、4月に若い柳を植えていた。民謡「宮津節」で「二度といま丹後の宮津」

「橋の財布が空になる」と歌われた宮津の花街の繁栄ぶり。魚屋町自治会長で旅館業の中井元さん(61)は「散策する観光客に見てもらい、話題にもなればと考えている」と話している。

2005年7月31日 朝日新聞掲載(縮小)

### ～ 魚屋町・見返りの柳 ～

名松リパス実行委員会副委員長で、魚屋町自治会長 中井元さんと、魚屋町のみなさんのふるさと愛につつまれて、倒木松が看板になりました。

### 2005.7.30 台風23号で倒れた天橋立の松使い 見返りの柳案内板復活



地元の繁栄を見守ってきた「見返りの柳」の案内板(宮津市魚屋・被止場児童遊園)

### 宮津史の存在アピール

宮津市魚屋の住民らは「海運で栄えた宮津のが帰る時に、柳の切りで遊郭を振り返ったことか存在を知ってほしい」と期待している。見返りの柳は、かつて幅1事に伴い、現在の場所に移植、同時に案内板の復元も撤去されたという。

数度の代替わりがあった柳は、昨秋の台風で倒木、今年四月、地元住民らが新たな柳を植樹した時、以前あった案内板の復活を企画した。案内板は、台風で倒れた天橋立の松の再利用に取り組む天橋立名松リパス実行委員会から提供された松で作製。表には「二度といま丹後の宮津橋の財布が空となる」と、宮津節の冒頭部分や柳の歴史などが記されている。

2005年7月30日 京都新聞掲載(縮小)

### ～ 府中・竹彩(たけいろ) ～

府中地区のみなさんの「心・ルネッサンス天橋立実行委員会」の企画により、天橋立が幻想的な夏の夜を演出。



2005.7.30 京都新聞

### 明かり先に天橋立

府中地区 灯籠200基

日本三景・天橋立を望む宮津市府中地区の町並みを約二千基の灯籠で彩る初のイベント「府中・竹彩」が、八月六日と七日に開かれる。昨年の台風23号で倒れた天橋立の松で作った灯籠なども並び、幻想的な夏の夜を演出する。

6-7日点灯 台風被災松も素材

委員会が企画した。灯籠はすべて手作り。地元の府中小児童やPTA会員の協力を得ながら、竹灯籠一千基、松灯籠二百基を完成させた。灯籠の点灯は両日とも午後六時から九時までで、市・府道計五自治体、府中小や元伊勢籠神社境内を浮かび上がらせる。七日は午後五時から、模擬店やストリートライブ、パフォーマンスショーなどが開かれる。二十八日夜には試験点灯が行われ、写真、イベント本番に備えた。

2005年7月30日 京都新聞掲載(縮小)

京都7月22日 2005.7.22

# 台風被害、天橋立の松

## 五山の送り火で供養

昨年の台風23号で大きな被害を受けた天橋立(宮津市)のクロマツを、八月に京都市で行う「大文字五山送り火」で供養することになり、市民らが二十二日、倒れた木で護摩木を作った。

### 宮津で護摩木作り

送り、無病息災を祈る行事で、毎年八月十六日。クロマツの護摩木は、大文字保存会が京都市左京区の如意ヶ嶽で送り火に加える。

日本三景の一つとされる天橋立は約三ヶ所続く松林で知られるが、昨年十月の台風23号でクロマツ約四千八



昨年の台風23号で倒れた天橋立のクロマツを「大文字五山送り火」で供養するため護摩木にする市民(午前、宮津市)

百本のうち百九十三本が倒れた。うち二本ほどを使い、約二十人で五ツの初盆。強風で倒れたマツの供養十ツの長さに切りそろえて細く割はありがたい」と話した。

り、三十本程度の束を次々に作っていった。

天橋立の再生を目指す有志でつくる「天橋立名松リバー実行委員会」

の幾世淳紀委員長は「今年の夏はマ

ツの初盆。強風で倒れたマツの供養

はありがたい」と話した。

雑記帳 毎日の  
8月16日に行われる京  
（京都府宮津市）の松が、  
り火で燃やして」。



都・五山の送り火の護摩木に生まれ変わった写真。  
台風の約200本が倒れるなどし、被災1年前に「送り火で倒木の供養も」と、松の再利用に取組む有志が提供を決めた。  
22日にメンバー

▲毎日新聞掲載(縮小)

チャタ 年の台風23号で被害を受けた天橋立(京都府宮津市)のクロマツを、京都市で行う「大文字五山送り火」で供養することになり、市民らが二十二日、倒れた木で護摩木を作った写真。  
台風の約200本が倒れるなどし、被災1年前に「送り火で倒木の供養も」と、松の再利用に取組む有志が提供を決めた。  
22日にメンバー



▲産経新聞掲載(縮小)

いずみ 8月16日に京都市内で行われる「大文字五山送り火」で、昨年の台風23号で倒れた天橋立(京都府宮津市)の松の一部が護摩木として使われることになり、宮津市の市民グループが22日、まき割りをした写真。  
天橋立の再生を目指す有志でつくる「天橋立名松リバー実行委員会」の幾世淳紀委員長は「今年の夏はマツの初盆。強風で倒れたマツの供養はありがたい」と話した。



▲読売新聞掲載(縮小)

今夏、京都の五山の送り火で、

天橋立の倒木松を

供養してもらいます。

大文字保存会のみなさん、

ご協力ありがとうございます。



酷暑の中、今夏の五山の送り火用の松明20束を、みんなで製作(2005年7月22日)  
※ 8月8日(月)京都の大文字保存会へ持って行きます。

7月27日 大文字保存会 役員 葛西氏など2名が、松材(4m×16本)を、来年(2006年)の送り火用に搬出されました。

## ■ 鹿児島県阿久根市議会

### リバーズ視察



去る7月25日、遠く鹿児島県阿久根市より天橋立名松リバーズ実行委員会に、阿久根市議会の方々、松原宮津市議会事務局 議事調査係長の案内でリバーズ館へ視察にお越しになりました。鳥飼・築地・

庵・児玉・山下の各議員で阿久根地域の松林の四割五割が、昨年の台風で倒木、その再生に向けての取り組みを探りに来られました。文殊堂「出船祭」の翌日でもあり、忙しい中でしたが、幾世実行委員長・小田宮津市議会議員・山本事務局長が対応し、現地視察も含み約2時間、充実した討論がなされました。当委員会も倒木松の活用についての、幾つかのアイデアもいただきました。

左記のところからも、視察にいられました。

7月12日（火） 気比の松原を愛する会

7月20日（水） 石川県よりエコツアー

## ■ 天橋立を守る会 総会 開催

天橋立を守る会（森 輝吉会長）の平成17年度総会が、7月7日（木）多くの会員の参加の下行われ、名松リバーズ事業のことが中心議題となりました。

名松リバーズも、守る会ぬきに成立しなかったことと思えます。

平成16年度に続き、

平成17年度もリバーズ事業を支えていこうと決めました。



## ■ 猛暑の中、松の皮むきを実施

7月22日、朝からの猛暑の中、京都大文字 五山の送り火に奉納する松材作りと、松材の皮むき作業を行いました。

多くの実行委員の皆さんに出勤いただき、丁寧に作業をしてもらいました。おかげさまで多くの松材が化粧直しを施され、美しく生まれ変わりました。

実行委員会の皆さん、大変ご苦労さまでした。



## ■ 天橋立名松リバーズ

### チャリテイジャズコンサート開催

7月17日 智恵寺境内に於いて



天橋立「炎の架け橋」の当日、智恵寺境内に於いて、智恵寺さまと地元ジャズプレイヤーの協力により、天橋立名松リバーズチャリテイジャズコンサートが開催されました。300人ほどの多くのお客様さまを前にしての演奏で、プレイヤーの皆さんも張り切ってパフォーマンズされておられ、しばしの異次元空間が境内に作られました。

尚、チャリテイ基金として5万円を越える浄財を募金していただき、特に小さいお子さんが、5円玉・10円玉を箱に入れていただき、勇気づけられる思いがしました。

## 北海道大学・常呂郡置戸町と 交流 深める

### 北海道大学と交流

7月26日～27日の2日間、幾世委員長・松井・細井両副委員長の3名が、北海道大学と常呂郡置戸町を訪問してきました。

北海道大学のキャンパスは大変広く、緑がいっぱいの美しいたたずまいを見せ、自然と共存・共生している雰囲気がある所に漂っていました。

昨年の台風で倒れたポプラの木々も、構内のポイントの場所に展示を兼ねて置かれてあり、それが更にキャンパスの中に溶け込み、イメージアップに見事につながっていました。



北大構内での倒木モニュメント

北海道大学の南総務部広報課長とお会いさせていただき、当リバーズ館に中村北海道大学総長からいただいたメッセージを中心に展示した、「北海道大学「ポプラ再生事業」に関するコーナー」を設置したことなどを報告し、大変喜んでいただきました。



天橋立名松リバーズ館

また、北海道大学交流プラザ「エルムの森」には、名松リバーズ実行委員会のコーナーが設置されており、両者の交流・今後の活性化が楽しみになってきました。



北海道大学交流プラザ「エルムの森」於  
2005.7.26



### 工芸の町・置戸町と交流

翌27日は北海道を横断し、往復700キロを走破して常呂郡置戸町を訪問しました

昼時の中途半端な時間にも拘わらず、オケクラフトセンター・森林工芸館 館長 北山氏をはじめ、現地で木工クラフトに携わる多くのクラフトワーカーの方々、更にその指導に当たられている大分県湯布院町在住の時松先生らに迎えられ、天橋立名松リバーズ実行委員会のこれまでの活動展開や事業の主旨、今後の方向性などについて懇談し、短時間でしたが相互理解が図れたものと思います。



オケクラフトセンター 於 2005.7.27



時松先生がリバーズへ館へ来館  
2005.7.28

驚いたことに、翌28日、前日に色々ご指導賜った時松先生（アトリエときデザイン研究所）が、北海道から天橋立にお越しいただき、現場を見ていただき大変有意義なご示唆を多くいただいたことも報告しておきます。

## ■「天橋立名松リバー」に寄せる



小川 眞氏 (生物環境研究所所長 農学博士)

松は大昔から日本人の暮らしにしっかりと根付き、能舞台の松のように生活の背景になっていました。松丸太は天井を支え、松板は床板や鴨居になり、松葉や松かさには、枝や枯れ木は風呂焚きに使われ、根は松明になりました。赤松は人手が加わった里山に広がり、日々の暮らしを支え、黒松は海岸に沿った田畑や人家を潮や風から守るために、ご先祖たちの手で宮々と植えられてきました。いずれも松林は人の手が作り上げたものなのです。1960年以降、私たちの暮らしが山から離れて科学燃料に頼るようになり、いつの間にか自然のありがたさと命あるものの尊さをすっかり忘れてしまいました。

人手を離れた松林からマツタケが消え、マツノザイセンチュウに枯らされて、松は日本列島から消え去ろうとしています。酸性雨や酸性雪、さらには温暖化が加わって、松だけでなく、ナラやブナも消え始めました。何百年も樹齢を重ねた樹木がこれほど大量に枯れたり、倒れたりした例は有史以来なかったことなのです。もう一度謙虚に自然の偉大な力と私たちの暮らしを見直し、未来のために何をすべきか、考えてみようではありませんか。天橋立の倒れた松はこれから私たち人類が直面する地球温暖化の厳しい現実と資源の大切さを教えてくれたような気がします。「松の再生」は私たちの「心の再生」につながることでしょう。皆さんがこの活動に参加され、自然への理解を深めてくださるようお願いし、心から応援したいと思っています。

2005年7月19日

京都府京都市生まれ。京都大学農学部大学院修了後農林省入省、林業試験場や農水省森林総合研究所、(株)関西総合環境センター常務取締役等を経て、現在は同社顧問・生物環境研究所所長や大阪工業大学客員教授を勤められる。著作多数。天橋立名松リバー実行委員会顧問。

## ■天橋立名松リバー館へ来館くださり、応援メッセージをいただきました。

東京都 いさかかつじ氏 (イラストレーター)



リバー館にはじめて来ました。私は台風23号が天橋立を直撃する前から橋立の松を描いていたもので、台風の折りを待たず、おぼえました。その後の皆様の動きの早さ、確かさ、志の高さに感激し、少しでも応援させていたいただきました。

の橋立だけの問題ではなく、多くの人の心の問題にまで広がりをもちました。人は心のつながりには具体的な形が必要で、それがリバー館だと思えます。今日、来てみてそれがよくわかりました。私の松の絵が飾られているのを見て、あらためて描いてよかったです。なと思いました。この絵が、皆様のエネルギーの一部にでもなればいいな。次の松の絵を描きたくなった。リバー館をステップに第三段階へ進まれ、多くの皆様に響いていけるといいな。まだまだやるべきことがあると思います。お身体に気をつけて、ますますのエネルギーが生まれますことを祈ります。

2005年7月16日

リバー館の完成は、第一段階から第二段階へ入った事を示し、はじめの志を変えることなく、天

※いさかかつじ先生には、約2年前から天橋立の松をテーマに絵を描いていただきました。今回の台風で倒木した名松「双龍の松」や、損傷した「無村の松」も作品にさせていただきました。是非、ご覧くださいませ。名松リバー館より

## ■「天橋立名松リバー」へのお便り

作家 山口 正介 さま (故 山口睦先生のご子息)

治子 さま (故 山口睦先生の奥さま)

天橋立名松リバー実行委員長としての御活躍、素晴らしいことと、遠くから応援させていただきます。素情らしいことと、福となす、とでも言うものでしょうか、大勢の方々の御協力は目をみはるものがありますね。

少しばかりでお恥ずかしいですが、基金の中へ入れてくたくれぬ御身体大切に祈りして居ります。益々のご活躍をお祈りします。

かしこ

※リバー基金として5万円いただきました。本当にありがとうございます。

■ 新たに、200字応援メッセージが届く

北海道大学 総長 中村 睦男氏



北海道大学のシンボル「ポプラ並木」は、昨年9月の台風で壊滅的な被害を受けましたが、全国の皆さまから再生を願う心温まるお手紙や支援をいただき、今年の6月に再生されました。北大130年の歴史を見つめてきたポプラ達は、全国の皆さまと本学の交流の架け橋となり、そして今、日本三景の一つを誇る天橋立の名松との交流が実現しようとしています。天橋立名松リバースの活動を北海道大学も応援いたします。

京都大学 教授 中西 輝政氏



天の橋立は、松島・宮島と並んで日本三景の一つといわれていますが、その橋立の松こそ「日本の生命」ではないでしょうか。台風は日本列島の宿命なのですが、今、私達の目に入るこの松並木を、我々の祖先が営々と守ってきたことに思いを馳せざるを得ません。その橋立の松を我々の（世）代で絶えさせる訳にはゆきません。この松並木の再生こそ「日本の再生」を支えるもの、との思いを抱く者です。

日本旅のペンクラブ会員、温泉学会理事

弁護士 大川 哲次氏

「3つの生命の再生」

見るも無惨だった台風23号の天橋立への直撃……。名松たちの悲鳴が聞こえるほどの悲しい出来事でした。

それが天橋立名松リバース実行委員会の働きを受けて、3つの生命を伴って再生されました。一つは、樹齢300年の名松の作品としての生まれ変わり、一つは、なぎ倒された地の跡にまた生まれくる松の息吹とそれを支える天橋立の新たな景観の出現、そしてもう一つは、名松リバースの取り組みが私たちに与えた希望と今後の天橋立に対する期待です。

私は、いつ天橋立を訪れてもその変わらぬ美しい姿からたくさん癒しを頂いてきました。恩返しのためにもこれからも力添えしたいと思っています。



2005  
8/31  
Wednesday



天橋立名松リバース

チャリティコンサート

会場 宮津会館 開場 19:00 開演 19:30 入場料 ¥3,000 (一部をリバース基金に寄付させていただきます)

一部：カムバック・フォレスト／神山慶子 (ヴォーカル)

二部：フラメンコ／尾藤大介 (ギター) 他

1990年にNHK総合テレビ「北の国からメッセージ」テーマ曲  
倉本聰作詞 宇崎竜童作曲の「COMEBACK FOREST(森よ還れ)」を唄う

故郷をこよなく愛するフラメンコギタリストと期待の新人  
アーティストたちの情熱！フラメンコライブ



神山慶子 (ヴォーカル)

ジャズ、シャンソン、ポップス、あらゆるジャンルの歌がヒーリング・パワーを持つアーティスト。ソウルフルなボーカルがあなたの心を揺さぶる。



安齋 亨 (ピアノ)

ピアノ、キーボード奏者。作曲家、アレンジャーとして幅広く活躍。NHKのど自慢北海道専属キーボード奏者。2004年CD「Life of Northern face」をリリース。



尾藤大介 (ギター)

1975年京都府宮津市生。大学在学中にフラメンコギターを始め、土橋幸男、スペインではフェリペ・マジヤ等に師事。03年日本フラメンコ協会ギター部門新人奨励賞受賞。



稲田 進 (バイレ)

広島出身。10歳でフラメンコ舞踊団入門。その後17歳でプロとなる。04年スペインへ渡西、ドミンゴ・オルテガ、ヘスス・アギラ、ハイロ・デ・モロンに師事。

私が住む北海道のポプラ並木も台風で倒れてしまいました。でも、今は美しく再生しています。天橋立の松もいつか燃えることを信じています。(神山慶子)  
故郷宮津・天橋立の多くの松が倒木の被害を受けました。私たちの活動が松を甦らせることに少しでも役立てば幸いです。(尾藤大介)



今枝友加 (バイレ)

1978年生。大学サークルでフラメンコを始める。バイレは山宮弘美、スペインではメルセデス・ルイス等に師事。03年日本フラメンコ協会カンテ部門、04年バイレ部門新人奨励賞受賞。



井山直子 (バイレ)

1975年東京出身。大学のサークルでフラメンコを始める。小島慶子に師事。2000年より数ヶ月セビージャに留学。04年日本フラメンコ協会バイレ部門新人奨励賞受賞。



有田圭輔 (カンテ)

1968年高知県生まれ。98年に川島桂子氏にカンテ、パルマを師事。03年日本フラメンコ協会カンテ部門新人努力賞を受賞。04年クレスティカレーベルからアルバムCD「I COLORE SJ」を発売。

☆天橋立名松リバース宣言☆  
1. 雄大な自然の中に人と松が健やかに生きる空間をここ天橋立につくり出そう。  
1. 災害の経験を糧として、ここ天橋立を未来に残し、地球環境の危機を告げる警鐘の地としよう。  
1. 日本三景天橋立の白砂青松を取り戻し、地域の大いなる財産を子孫に伝えよう。  
©2005年2月1日名松リバースフォーラムにおいて採択

主催：リバースチャリティコンサート実行委員会

後援：宮津市(社)天橋立観光協会 国際ソロプチミスト宮津 宮津ロータリークラブ 宮津ライオンズクラブ (社)宮津青年会議所 宮津商工会議所青年部 宮津天橋立観光旅館協同組合 宮津おどり振興会 天橋立を守る会 天橋立名松リバース実行委員会 (順不同)

神山慶子さん予定曲 (順不同)

- I ビートルズメドレー
- II 愛は時代を超えて
- III カムバックフォレスト (森よ還れ)
- IV 100万本のバラ
- V サマータイム
- VI ス・ワンダフル
- VII マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン  
(映画 タイタニックテーマ曲)
- VIII ジョージア・オン・マイ・マインド
- IX 時には母のない子のように



8月31日 ジョイントコンサートに向けて熱唱！  
神山慶子さん・安齋 亨さん 2005.7.26 札幌於

「松はよみがえる・音と自然と天橋立」のジョイントコンサートが、みなさんの努力で着実に話題を呼んでいます。800人定員の会場です。これからの追いつき込みが大切です。メンバー全員がリバースの趣旨を説明し、一人でも多くの方に声をかけよう！ その熱意が人に伝わったとき、感動的なコンサートが実現することでしょう。

・尾藤大介氏「故郷 宮津・天橋立の多くの松が倒木の被害を受けました。私たちの活動が松を甦らせることに少しでも役立てば幸いです。」  
・神山慶子氏「私が住む北海道のポプラ並木も台風で倒れてしまいました。でも、今は美しく再生しています。天橋立の松もいつか燃えることを信じています。」

天橋立名松リバース  
チャリティコンサートを成功させよう！

■ 8月31日(水) 宮津会館 於 PM7時会場 PM7時30分開演



161-0033 東京都新宿区下落合1-8-1-204 現館内 TEL 03-3362-9752 FAX 03-3362-5957

天橋立・丹後研究 合同取材報告

(東土)

平成17年7月14日～15日、旅行作家文庫、天橋立・丹後研究(仮題)の合同取材旅行を行いました。参加者は、野口、竹村、いさか、多田の各会員、奥井、野崎、花弥、柳沢の各準会員、計8名でした。(いさか、奥井、花弥は15日～16日参加) 現地では、昨年10月20日に天橋立を直撃した台風23号によってなぎ倒された樹齢300年を超える名松などを再活用する運動「天橋立名松リパース実行委員会」(幾世淳紀委員長)の活動についての座談会と関連取材、数々の歴史遺産や観光資源を有する丹後地区についての各メンバーのテーマに応じた取材、および天橋立・丹後地区の賛助会員さんのお宿と施設の取材などを実施いたしました。

今回の取材旅行に際して、宿泊をご提供いただきました賛助会員の文珠荘さん、あびすやさん、そして取材活動にご協力いただいた賛助会員さん並びに関係者の方々に、厚くお礼を申し上げます。

◆天橋立・丹後研究について

平成18年年初(2月日処)の発行を予定しています。今回の合同取材の他に、独自取材での寄稿も募集中。原稿締切は本年10月末日です。寄稿連絡・お問合せは事務局まで。FAX: 03-3362-5957 E-Mail: micryanarisawa@goo.jp



天橋立駅徒歩3分の「天橋立名松リパース館」取材を利用した「アートコンテスト」実施中

◆チャリティ・コンサートを後援 2005. 8. 31

天橋立名松リパース実行委員会は、8月31日(水)、宮津会館で行う、地元出身のフلامンコギタリスト 尾藤大介氏他のアーティストを招いてチャリティ・コンサートを後援。入場料3000円の一部はリパース基金に寄付されます。主催はリパース・チャリティ・コンサート実行委員会、開演19時・開演は19時30分です。

天橋立名松リパース館 5/29オープン!

昨年10月、台風23号の被害で倒れた天橋立のたくさんのお名松。廃棄処分されそうになった大量の倒木を、なんとか再生し、活用できないかと集まった有志で立ち上げた「名松リパース実行委員会」。連日の清掃作業や基金を重ね、みんなの智慧と汗の結晶が実り、5/29に松の再生のPR館「天橋立名松リパース館」がオープンしました。館内1階は、倒木を使ったアート作品や、台風災害後の取り組み中の写真、各界著名人による激励のひとこと応援メッセージなど展示。2階は松を使った創作室。「松の想いをよこごびに」と広く知ってもらうために開放しています。8/31(水)にはチャリティコンサートも予定(ビッグアップ情報参照)。あらためて天橋立の再生をみんなで考えてみませんか。■天橋立名松リパース館 宮津市文珠 10時～17時まで開館。入場無料、無休 TEL090-1482-7710(幾世) http://www.tango.or.jp/re-birth/



天橋立名松リパース館内と幾世淳紀実行委員長

倒れた松で芸術作品

台風被害木を再生



展示作品やテーブル、内壁などすべて天橋立の松で作った館内

昨年の台風23号で倒れた日本三景・天橋立の松並木の松を活用し、芸術性豊かな作品展示や創作活動の拠点となる「天橋立名松リパース館」が5月29日にオープンし、多くの来館者が訪れている。

同館は松の再生活動について広く知ってもらおうと地元住民らで作った天橋立名松リパース実行委員会に絵や文字を書いたりでき

天橋立名松リパース館 2階に創作の場も

る創作の場になっていて、作品の展示もある。

これまで同委員会は松の生感や保全方法を学ぶ研修会やフォーラムを開き、松の再利用に取り組みできた。今後も松を通して様々な事業を行っていく考えで、松材の管理や製材などの費用を捻出するため、名松リパース基金を募っている。連絡先は0772-22-6304へ。

近代産業の効率至上主義のなかで手にすることができた豊かな物質文明の代償として、地球が悲鳴を上げていることに現代人は、気づき始めています。一方で、伝統的工芸品産業は、環境を大切に守り、育ててきた産業として再認識されつつあります。石、木、竹、土、漆、鉄など伝統工芸の素材は、すべて自然からの授かりものです。地球の資源に感謝しつつ、適度にいたたき、ものを生産し、大切に生活

「もったいない」の心

のなかで用い、寿命がくると、再び地球に戻っていくという循環の世界が、伝統工芸品産業に貫かれています。ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マタイ副環境相が、京都議定書発効記念行事に参加するため来日し、日本には資源を有効に活用する言葉として「も

天橋立の松再生へ学生動く

京都国際建築技術専門学校 京都伝統工芸専門学校理事

新谷 秀一

2005. 7. 12



「静物」乾谷じゅん子 (亀岡油絵懇話会)

中の人に松との共生は、自然との、地球との共生に他ならないことを訴えていきたい」と、昨秋の台風23号で倒れた天橋立の松の再生に取り組み、当校(京都伝統工芸専門学校)に対して創作協力の依頼を受けました。ありがた、い申し入れとして快諾したのは、言うまでもありません。実は多くの学生たちが自主的に立ち上がったこと、二年がかりで学生が分担して現地の文殊堂にちなみ、文殊菩薩と観音像を制作するほか、実行委員の希望を聞き、彫刻や工芸品に仕上げた後、地元にお返しする予定です。この取り組みで一番の驚きは、

口丹随想

「もったいない」という言葉があることを紹介して話題になりましたが、この「もったいない」こそ、わが国の伝統工芸産業に貫かれた言葉です。さて、このほど一つの素晴らしい出会いがありました。知人を介して「天橋立名松リパース実行委員会」(幾世淳紀委員長)のことを紹介されました。



早稲六月二十九日に、仏像彫刻、木彫刻、木土器を専攻する学生六十三人を現地に派遣し、松材の引き取りを行いました。これは、プロの職人講師の指導を受け、自然からの授かりものの素材を、大切に慈しむようにして作品づくりに励む日々の実践からの発露ではなからうか、と思われ

※ 7月に「旅行作家の会」(東京)・「トラベルニュース社」(大阪)や、地元の「月刊えふ」から取材を受けました。他にも、北海道新聞など、多くのメディアから取材を受けています。



全国の人々に愛された丹後の名産「日本三景・天橋立の松をリバイブ(再生)させたい」



天橋立名松リバイブ実行委員会委員長 幾世淳紀さん

昨秋の台風が瞬間にして、天橋立の樹齢三〇〇年を越える名松一九三本の命を絶った。この松たちの悲鳴を耳にし

た人々が次々と駆けつけた。岩滝町を含めた近隣から、若者も、木の匠も、商店主も……実に多くの人たちが、名松リバイブを合言葉に集まった。天橋立名松リバイブ実行委員長 幾世淳紀さんをお訪ねしました。

天橋立は、古来より多くの人々の心を和ませ、体をいやしてきました。丹後人の遺伝子にしっかりと組み込まれている、自然に対するデリケートさを確認するにふさわしい景観です。



天橋立名松リバイブ館内

松が未来にのこすもの。展示・創作館」が完成。松材をさらに幅広く、多くの人に利用してもらおう場をつくらうと、だれでも気軽に立ち寄れる「天橋立名松リバイブ 展示・創作館」が、文珠地区にオープンしました。

倒れた松たちは横たわったまま、その樹皮に手をあてる。また温もりを感じさせる。「私たちの命を無駄にしないで」と、つぶやきが聞こえる。ようだと幾世さんは言う。

幾世さんは、「若い人たちが再生に取り組んでくれることがうれしい」。松たちも、きっと喜んでいると語る。

服飾評論家の市田ひろみさんたちの応援メッセージ、乾燥場には約一〇〇本の松を保管、松の創作室もあります。街づくりの中核として天橋立名松リバイブ館を大切に利用していきたい。

編集後記。議会の構成が変わり、新しい委員による編集がスタートしました。「まちな声」には、全国の人々が胸を痛めた日本三景天橋立の松の倒木に関して、名松リバイブ実行委員長 幾世さんに、特別参加していただきました。町民と議会をつなぐ、わかりやすい編集に努めます。ご協力と共に、お気づきの点をお寄せください。(新しい編集メンバー) 山下慶次郎 楠田 寿照 渡辺 貴治 前田 悦示 高岡元太郎 糸井 満雄

実行委員会のこれまでの取組 「天橋立名松リバイブ展示・創作館」がオープン 倒松を利用した作品の展示や創作活動の拠点に



■10月21日 台風23号が通り過ぎた天橋立

■10月25日～ 天橋立を守る会を中心に、様々な清掃ボランティア活動が続く

■11月 各種団体・関係機関、各界の識者へ活動の説明と協力要請

■2月1日 フォーラム開催



■4月10日 イベント開催 『チェーンソーカービング』 (クリーンはしで一人一坪大作戦で)



■展示・創作館の準備



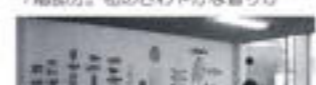
■展示・創作館の準備



■展示・創作館の準備



■展示・創作館の準備



■展示・創作館の準備



5月29日、天橋立駅横にオープン

倒れた松を再生させるために。この実行委員会(会長・幾世淳紀さん)の会員は現在88人。月に1度のペースで委員会を開くなど、地道に活動を続けています。

「展示・創作館」が完成。松材をさらに幅広く、多くの人に利用してもらおう場をつくらうと、だれでも気軽に立ち寄れる「天橋立名松リバイブ 展示・創作館」が、文珠地区にオープンしました。

今後の予定 「天橋立龍燈アートコンテスト」 現在、実行委員会では、「天橋立龍燈アートコンテスト」の開催に向けて準備が進められています。

立龍燈アートコンテスト」の開催に向けた準備が進められています。日程は、8月6日、7日の2日間、会場は、文珠地区(智恵寺)と府中地区(龍神社)の予定。

6月30日まで作品を募集中。応募されたアイデアは1次審査にかけられ、その後、創作するための材料が実行委員会から提供されます。

天橋立名松リバイブ実行委員会 電話 22-5304 ホームページ http://www.tbrg.or.jp/birth

事務局 日誌

7月1日 (金)	松材の運送 京都伝統工芸専門学校 宮津市立吉津小学校5年生 課外授業15名 (リバー活動)
2日 (土)	名松リバーズだより No.6 発刊
6日 (水)	岩滝倉庫 単管搬入
7日 (木)	京都工芸繊維大学 来橋 天橋立を守る会 総会
8日 (金)	京都伝統工芸専門学校 視察 丹後土木事務所 松材保管場所について依頼
9日 (土)	京都大文字保存会 松材視察
11日 (月)	舞鶴養護学校 視察
12日 (火)	NHK京都放送取材・KBSラジオ生取材・KBSテレビ取材 気比の松原を愛する会 視察とリバー活動報告
14日 (木)	旅行作家の会取材 リバー活動について座談会
15日 (金)	第8回 天橋立名松リバーズ実行委員会 旅行作家の会 取材
17日 (日)	チャリテイ JAZZ コンサート (智恩寺境内)
19日 (火)	第9回 創作部会
20日 (水)	石川県より エコツアール 視察とリバー活動説明 (山本) 京都府立宮津高等学校 松材搬出 (教材用) 文珠繁栄会 案内看板用松材搬出
22日 (金)	五山の送り火用松明作り テレビ取材 (読売・朝日・毎日・関西各テレビ) 新聞取材 (共同通信・京都・読売・毎日・産経各紙) 松の皮むき作業
25日 (月)	鹿児島県 阿久根市議会議員5名 視察 KBSテレビ 生取材及び (別番組) 録画取り 京都精華大学 来館 京都伝統専門学校 松村校長 来館
26日 (水)	北海道視察 北海道大学と置戸町視察 (幾世・細井・松井)
27日 (水)	北海道新聞 内本氏 取材
28日 (木)	京都大文字保存会 松材搬出 (4m×16本)
29日 (金)	時松辰夫 (アトリエときデザイン研究所) 氏 来館交流 第10回 創作部会
8月1日 (月)	名松リバーズだより No.7 発刊
3日 (水)	第9回 天橋立名松リバーズ実行委員会
5日 (金)	龍灯アートコンテスト準備
未定	陸橋下 (京都縦貫自動車道入り口) 松材保管場所 搬入
6日 (水)	府中地区にて竹彩 (たけいろ) 龍燈アートコンテスト 審査発表 展示 (智恩寺・龍神社)
8日 (月)	京都五山の送り火 (大文字) 用 松明 京都銀閣寺搬入
16日 (火)	京都五山の送り火で松の供養 現地にてテレビ取材
31日 (水)	尾藤・神山ジョイントチャリテイコンサート (宮津会館)

今後の予定